

【様式1】

学校名	北杜市立明野小学校	教科	国語科
研究主題	主体的・対話的で深い学びを身に付けた児童の育成 ～新たな学びの姿に向けた授業の創造～		

1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①個別最適な学びを支える手立て

- ・自分の興味・関心を生かし、学ぶ内容や方法を検討する時間の確保
- ・自分の意志や判断によって選択できる学習課題の提案や学習計画の支援
- ・自分の学習の進み具合をメタ認知し、自己調整力を高めるための学習履歴の活用
- ・ICT活用能力の向上

②協働的な学びを支える手立て

- ・言語化能力の育成
- ・多様な他者との交流の工夫 (ICT活用)
- ・討論や意見の集約方法の学習
- ・教師の役割の確認

③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を支える手立て

- ・学習者各自の学習の共有・交流から各自の学習を調整
- ・教職員の学びも共有・交流・調整 (ミニ校内研の充実)

(2) 具体的な研究活動

①個別最適な学びを支える手立て

・「明野スタイル学習＝あけスタ」

- ・・・「自分で考えて、自分で決めて」
- 「人と学び合い」
- 「自分のペースで」
- 「ゴールを目指す」

自分で選択する場面を設定	学習計画を作成・確認
ループリックの提示	ICT活用による学習履歴

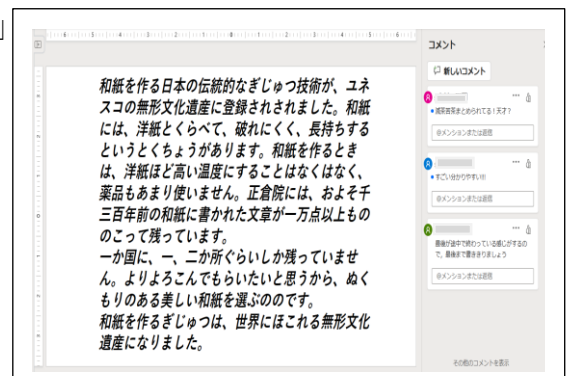


②協働的な学びを支える手立て

- ・ICT活用による振り返り・・・「自分の学習」
- 「友だちの学習」
- 「グループ学習」学びの共有

③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を支える手立て

- ・ICT活用による共同編集・・・「コメント機能の活用」
- ・関わりの力を高める取り組み・・・「アドジャン」
- ・ミニ校内研・・・「教職員にとって、今必要な学び」
- 「みんなで、共に学ぶ」



## 2. 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

### ①個別最適な学びを支える手立て

- ICT 機器・クラウド環境を活用していくことが、個別最適な学びを充実させる上で、重要であることが分かった。
- 学習者である子供自身が、「目標」に向かって、学習方法を「選択」、「決定」、「実行」、「評価」、「修正・調整・再調整」していくことが、個別最適な学びの一つの重要なサイクルであることを確認することができた。
- 子供が学習した内容をクラウドに蓄積する「学習履歴」の考え方が職員に浸透してきたことも大きな一歩である。
- 学習場面における、ICT 機器・クラウド環境のより効果的な使い方を追究していく必要がある。
- 「学習履歴」の蓄積方法や効果的な生かし方について「明野小の考え方」を統一していきたい。

### ②協働的な学びを支える手立て

- 振り返りをクラウド上で行うことで、他者の考えを気軽に確認することができ、共有することが容易になってきた。
- 今年度は、「明野スタイル学習」の中でも「学び方選択学習」に重点を置いたこともあり、協働的な学びについては今後より深く追究していく必要がある。
- 個別最適な学びの推進で得たものが十分に生かせることも分かり、生かすための手立てを研究する必要がある。

### ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を支える手立て

- 「一体的な充実」には、それぞれの「学びの場」で得たことをどのように共有するのか（リンクさせていくのか）が重要である。そのためには、学びを進める上で指導者が明確な目標設定・指導意図をもつこと、子供が目的意識・相手意識をもつこと等、「なぜ学ぶのか」を足場とすることも重要。

### ④その他

- 4年生の研究授業の際に「授業のコアとなる子がいない」＝「全員が主役となって学習を進めている」という状態が「学びの充実」にもつながっていくのかと感じた。
- 「新たな学びの姿」という巨視的視点から始まった研究が、自由進度学習という先進校から得た知見を生かすことで、最終的に「明野スタイル学習」という結論に至ることができた。具体化されたことで実践への見通しが立った。
- これまでの自身の授業観を変える挑戦であったが、一歩ずつ踏み出せたことで、新たな学びに近づいていくことができた。
- ミニ校内研や普段から気軽に学び合える雰囲気があったことが大変よかった。
- 学習に対する主体性をもたせるためには、学習者である子供に「学びたい」と思わせる意識を生み出していくことが大切であり、そのための単元計画、授業づくり、展開の構成が必要になることを共通確認、共有できた。その上で、ルーブリックを提示することの有効性を学んだ。
- 来年度以降、「明野スタイル学習」としての定着を図っていくのか、あるいはより高度な「自由進度学習」を目指していくのか、検討の余地があると思う。「明野スタイル学習」の定着を図る場合、さらにブラッシュアップできるよう、実践を積み重ねていく。
- 放課後の時間の使い方などを工夫し、教職員同士が意見交換、情報交換できる時間を確保する。
- ルーブリックの基準について研究を進める必要がある。指導と評価の一体化を念頭に、子供たちにどのような基準を示すことが子供の資質・能力の育成につながるのか、研究を進めていきたい。

## 研究授業の概要【国語科】

## 単元名 「気持ちを込めて作った詩を図書室に飾って伝えよう」

(第4学年)

## 1 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。  
[知識及び技能] (1) オ
- (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。  
[思考力、判断力、表現力等] B (1) エ
- (3) 相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ア
- (4) 言葉がもつよさを気付くとともに、幅広く読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 (1) オ	① 「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B (1) エ) ② 「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B (1) ア)	① 学習の見通しをもって、心を動かされたときのことを豊かな表現で詩に書き、進んで間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりしようとしている。

\*本単元では、[思考力・判断力・表現力等] B (1) エを特に重点的に指導し評価する。

## 3 単元について

本単元は、詩についての理解を深めるとともに、自分の気持ちを、言葉を選びながら伝えることをねらいとしている。1～3年で詩を学習してきており、リズムの心地よさや様々な技法について学んできているが、4年生では自分がこれまで感動したことなどを詩で表現する。

自分の気持ちを言葉で表現しても、他者にはうまく伝わらないこともある。またなかなか自分の気持ちを上手く表現できない児童もいるかもしれない。そこで、自分で表現したことの意図が伝わるように、言葉一つ一つにこだわり、自分の気持ちが伝えられるように、詩の表現技法を確認させたり、辞典を使って言葉の意味を調べさせたりして、言葉に着目させるようにしたい。



<p>5 (本時)</p> <p>6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ言葉や語順に着目して、友達が考えた詩の工夫を見付け、一言コメントを出し合う。</li> <li>いろいろな作品を読むことで、もう一度自分の作品を読み返し、よりよいものにする。</li> </ul> <p>☆ 自分一人で取り組むか 友達と相談しながら取り組む 教師を巻き込んで取り組む という学び方</p> <p>☆ 教室ですか たんぽぽ教室ですか という場所</p> <p>それぞれについて、「あけスタ」として各自で判断・調整し、取り組む。</p>	思	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>不十分なモデルを示し、語彙や語順によって伝えたいことが伝わらない（伝わる）ことを確認し合うような教材の準備をする。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習を振り返る。 (各自で振り返るため、一斉授業) この単元を通して、どのようなことを学び、どのような方法で、どんな力がついたかを振り返りシートに記入、もしくは入力しそれを全員で共有し、次時の学習につなげる。</li> </ul>	知	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩を書く際に意識したこと、また始めに確認した力が身に付いたかを確認する。</li> </ul>

### 単元の始まりに示すルーブリック

	🌟 (さらにレベルアップ!)	◎ (クリアしよう!)	△ (ヘルプを出して)
わかる・理解する	様々なものを表す語句、自分で新しく知った言葉を文章の中で効果的に使っている	様子や行動、気持ちや性格を表す言葉を使って豊かに表現している	様子や行動、気持ちや性格を表す言葉をあまり文章の中で使っていない
活用する	自分が伝えたいことが表されていて、自分の作品をよりよいものにしようと、他の作品やその中の言葉を比べて使っている	経験したことから詩の題材を選んでいる 自分が伝えたいことが伝わる表現になっているかを考えながら文や文章を整えている	書くことが選べない。もしくは伝えたいことが明確になっていない 文章が整えられていない
それに向かう姿勢	友達の作品や自分の作品の工夫を見付け、アドバイスしたり、自分の作品に生かしたりして、よりよい作品を書こうとしている	感動した時のことを詩に書いたり、間違いを正したり、読む人に伝わる表現になっているかを確かめたりしようとしている	詩を書かない まちがいを見直そうとしない

5 本時の学習

(1) 本時の目標

詩を読み合ったり、自分の詩を見つめ直したりして、詩の工夫を見付け、自分の詩に生かす。

(2) 授業の記録

	学習内容と総括的評価の材料と評価	主な学習活動	留意点
つかむ (八分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題把握。</li> <li>・本時のルーブリックの確認。</li> </ul> <p>◎自分の詩を見直したり友達の詩を読んだりした中で、よいところを見付ける。</p> <p>○自分の詩をさらに伝わるように工夫したり、友達にさらに伝わりやすくなるアドバイスをしたりできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自のめあて決定。</li> <li>・本時の時間配分検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で本時の流れを確認する。</li> <li>・自分が本時で身に付けたい力やルーブリックを明らかにし、それを達成するためのめあてを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手書き用のワークシート、タブレットで打ち込む用のシートを準備し、どちらも使えるようにしておく。</li> </ul> <p>【ICTの活用①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミライシード</li> <li>・情報検索・動画</li> </ul> <p>【自己調整】</p> <p>→前時の確認</p> <p>→めあての確認</p>
学習を進める (三十分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不十分な詩と十分な詩を提示し、工夫の確認をする。(一斉授業で、ポイントの確認をする。)</li> <li>・詩を読み合ったり、自分の詩を読み直したりして詩の工夫を見付ける。</li> </ul> <p>☆あけスタ(誰と、どこで、どのような方法で)していく。</p> <p>○1人でこれまでの学習を振り返り、自分の作品の工夫を見付ける。</p> <p>○友達と作った詩を読み合い、互いの工夫を見付ける。</p> <p>○グループで作った作品を読み合い、工夫を見付け合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再度、自分の詩を推敲する。</li> </ul> <p>○1人で他の技法や言葉を使って、詩に込めた気持ちが伝わるように推敲する。</p> <p>○友達の作品を見て、自分の作品にも技法や工夫を加えてみる。</p> <p>○グループで見た作品を見て、自分の作品に技法や工夫を加えてみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習してきたことを見直し、ポイントを振り返れるようなクイズに答える。</li> <li>・クイズに出てきたことを参考にして、自分の詩を読み直したり、友達の作品のいい所を見付けてあげたりする。</li> <li>・他の友達の作品を読んだら、必ず自分の詩を読み返す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習は、タブレットで振り返れるように資料を残しておく、自分が必要な時に必要なものを取り出せるようにしておく。</li> <li>・自分の作品を見直しても構わないが、ある程度アドバイスをし合えるようにグループ編成をしておく。</li> <li>・児童同士で作ったグルーピングでも見合える時間をとる。</li> </ul> <p>【ICTの活用②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミライシード(いいねカード)</li> </ul> <p>【自己調整】</p> <p>→必要に応じて前時までの学習を確認</p>

振り返る (七分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての振り返り。</li> <li>・ループリックの確認。</li> <li>・次時への課題確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートで本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手書き用のワークシート、タブレットで打ち込む用のシートを準備し、どちらも使えるようにしておく。</li> </ul> <p>【ICTの活用③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミライシード</li> </ul> <p>【自己調整】</p> <p>→振り返り</p>
--------------	---	---	--

(3) 評価

Bと判断する児童の状況	Cと判断する児童への手立て
過去の資料や友達の作品を読み、自分や友達の作品の工夫を見付け、自分の詩に生かしている。	友達が使っている技法に注目させ、その技法によって変化があるかを考えさせる。

「新たな学びの姿にむけた授業改善推進事業」の事例について

第6学年国語科「漢字を正しく使えるように」  
個別最適な学びにより自己の目的に応じた学習方法を選択する事例

- ・漢字学習はこれまで一斉での指導を中心に行ってきたが、児童が自ら学習方法を選択する学び方に転換したことにより、児童の漢字学習に対する主体性が高まり、漢字に係る知識・技能が高まった。
- ・各自の学び方や進度などを共有する方法として、コメント機能を活用することで、協働的な学びを深めることができた。

つかむ

- ・本時の課題把握
- ・本時のループリックの確認
- ・各自のめあて決定
- 目的に応じて学習方法を選択しているかを評価する。

あけスタ



- ・示された学習の流れとループリックを確認する。
- ・自分のめあてや学習方法を決定し、国語チャンネル内のPowerPointに入力する。
- ・口頭でめあてや学習方法を他者に伝える。

児童に示すループリック

☹自分の書けない字や苦手な字を見つけるとともに、自分に必要な学習を考え、今後の学習計画を立てることができる。

◎自分の書けない字や苦手な字を見つけ、書き出すことができる。

学習を進める

- ・各自の課題把握
- 目的に応じて学習方法を選択・調整しているかを評価する。

- ・以下の学習方法の中から、自己の進捗状況やニーズに合わせて学習を選択したり、組み合わせたりする。

＜文字指導＞

- ☆漢字スキルチェック
- ☆漢字オレンジ（字形ミニテスト）
- ☆セルフチェック
- ☆漢字音読
- ☆漢字練習（セルフチェックでのミス5個以上の場合）
- ☆プリント学習
- ☆ドリルパーク

＜語彙指導＞

- ☆漢字ブルー（語彙ミニテスト）
- ☆漢字活用練習（セルフチェックでのミス5個未満の場合）
- ☆プリント学習
- ☆ドリルパーク

＜相手意識＞

- ☆問題出し合い
- ☆予想問題づくり

あけスタ



振り返る

- ・めあての振り返り
- PowerPointへの振り返り入力の内容によって評価する。

- ・ループリックの確認
- ・次時への課題確認

- ・課題把握したことについて、国語チャンネル内に投稿されたPowerPointのスライドに入力しながら振り返る。

- ・🗨️を目指す児童には学習計画まで示すように声をかける。
- ・時間がある児童にはコメント機能を使って他者の振り返りにコメントさせる。教師も適宜コメントを入れる。（励まし・アドバイス等）





教材の特徴

児童が自分の学びを客観的に捉えることができ、見通しをもつことができ、個別最適な学びが充実する。

あけスタ

漢字活用練習

児童に示した練習方法の一例

個別最適な学びには学習方法の提案が必要であり、準備をする必要がある。

「漢字スキルチェック」(文字指導)

- 該当ページの音読(音訓・言葉・文)、筆順チェック、丁寧なぞり書きを各自で行う。
- その後教師のチェックを受けに行く。チェック項目は、「正しく書けているか」「教師が指定した字を正しい筆順で書けるか」「教師が指定した字の熟語を2つ述べられるか」の3つである。

「漢字オレンジブルー」(文字指導+語彙指導)

- 漢字スキルのオレンジページでは、「熟語を正しく書けているか」をチェックする。
- 巻末の青色ミニテスト(10問)では、「熟語を正しく書けているか」「その熟語以外の熟語を複数書けているか」「自分で書いた熟語を見ずに2つずつ熟語を言えるか」の3つをチェックする。

「セルフチェック」(文字指導)

- 音訓だけが見える状態にし、空書きして、その字が書けているかをチェックする。
- 書けていない字を洗い出し、5つ以上のミスの場合は漢字練習(ノート学習)へ進む。
- ミスが5つ未満だった場合は漢字活用練習に進む。

「漢字音読」(語彙指導)

- 漢字スキルに表記の音訓・言葉・文を音読する。何度も読むことで、漢字の音が定着し、読む力を高める。
- ふりがなをぬりつぶし、見えない状態にして読む。

「漢字サバイバル」(文字指導+語彙指導)

- 教師または友達が出題(読みを伝える)した字を、正しい筆順で空書きする。

「漢字練習」(文字指導)

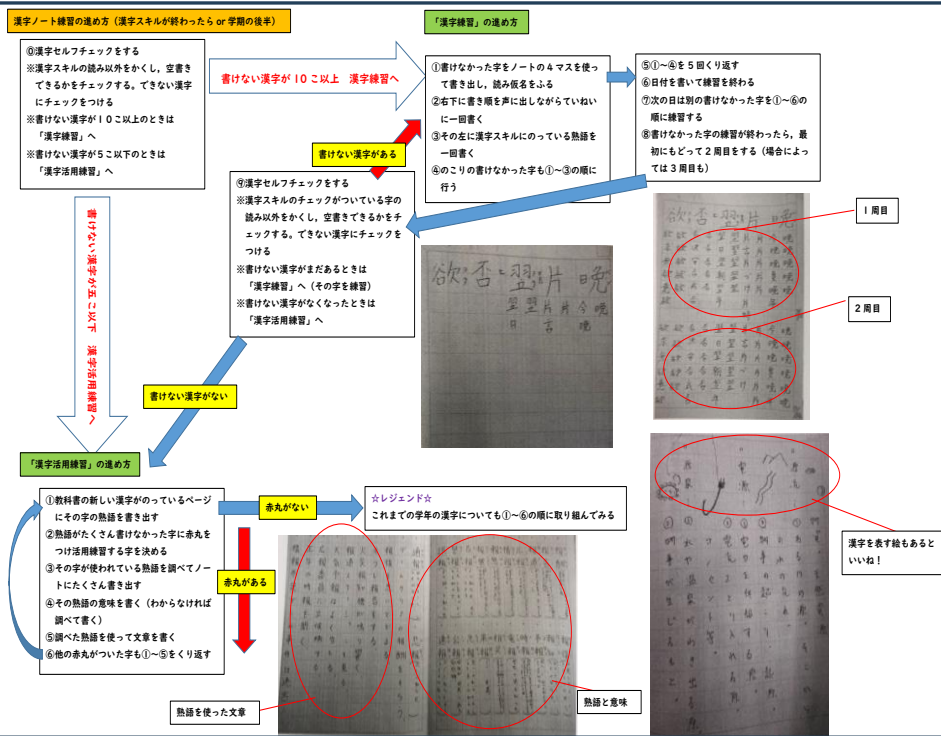
- セルフチェックで書けなかった字を練習する。

「漢字活用練習」(語彙指導)

- 教科書の巻末ページに載っている学年配当漢字を使った熟語を何も見ずに書き出す。
- あまり熟語を書けなかった字をピックアップし、その字を使った熟語を辞書等で調べながら、ノートに意味を書き出す。
- その熟語を使った文をノートに書く。

「予想問題づくり」(相手意識+語彙指導)

- 熟語や送り仮名問題を予想し、タブレットや手書きで問題を作成する。それを共有する。



成果と課題

- PowerPointファイルの工夫→セクション分けしたことで児童が入力するスライドを間違えることなくできた。また、他者へのコメントもしやすくなった。
- 教師が各自の漢字学習のチェックすることは時間がかかるが、確かな学力につなげるためには必要なことであり、平均点の高さからも有効であることが示された。(2回の50問テスト 平均点96点・91点)一部の児童だけでなく、児童全体が得点を伸ばしていることから、漢字の知識・技能も高まっていると思われる。
- 第4学年から積み重ねてきた学習方法であるので、児童が自分の状況に応じて学習を選択できた。
- 今回作成したPowerPointは、本実践には有効であったが、他の実践に十分に活用できなかった。事後に生かせるデータでありたい。その反省ももとに、単元を通じて学びを蓄積・変容していける形に変えていきたい。